

第1回諏訪東京理科大学公立化等検討有識者会議 会議録

開催日時	平成28年2月4日(木) 13時00分～14時50分		
開催場所	茅野駅前ベルビア3F マリオローヤル会館「シルバールーム」		
出席者数	22人		
欠席者数	8人		
公開・非公開の別	公開	・ 非公開	傍聴者の数 1人
会議結果	協議内容・発言内容(概要)		
<p>【会議の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 委嘱書の交付 4 自己紹介 5 委員長の選出 <ul style="list-style-type: none"> ※「諏訪圏ものづくり推進機構」の草間 三郎理事長に決定。 6 確認・報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1)「諏訪東京理科大学公立化等検討有識者会議」の役割について <ul style="list-style-type: none"> ※(事務局から説明) (2)「今後の諏訪東京理科大学のあり方に関する報告書」の概要について <ul style="list-style-type: none"> ※(事務局から説明) 7 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 諏訪東京理科大学の存続の必要性について (2) その他 8 その他 9 閉会 			
<p>【有識者からの意見】 － 諏訪東京理科大学の存続の必要性について －</p> <p>「産業関係者」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで大学がある諏訪圏から、大学が無い地域にはしたくない。 ・知の拠点として大学の存在価値を感じている。 ・地元企業として、大学の存在意義は大きなものがある。 ・自社にも卒業生を送り出している。 ・今さら大学が無くなることはとんでもない話であり、是非とも大学は残していただきたい。 ・大学を残す方法として、報告書にある工学系ひとつで進むことも一つの方法だと思うが、経営情報と技術的な面との融合に期待しており、マネジメントも大切である。 ・地域に貢献してきていただいている大学を何としてでも残していただく方策を考えていかなければならない。 ・公立化により収入面、偏差値等が向上する部分はあると思うが、大学の残し方が重要。 ・大学と地域活性化がどう結びつくかに期待をする。 ・量産の仕事のくくりの中では、いつまで仕事ができるかに不安があり、この地域は企業が集積していることが特徴であるため、プロトタイプングを仕掛けていくには非常に良い地域ではないかと感じている。大学が旗振り役を担う存在であっていただけると、地域の活性化が図り易いのではないかと。 			

- ・企業としては、工学系の知識とマネジメントの知識を持った学生に来ていただけることは非常に大きなメリット。
- ・大学の存続には、ただ公立化すれば良いということは決してないと思うので、この地域の特色をカリキュラムの中に取り込んでいただき、カリキュラムと地元企業とが連携し、この大学に入れば、ある程度の戦力として企業に入っていたらという産学連携の形がしっかりと見える大学改革を期待する。
- ・大学の魅力があつてこそその存続だと思う。
- ・学生には、この地域の自然等も文武両道でこの地域に来てもらいたい。
- ・最近、自分で問題解決をしようとする学生が少ないと感じるため、社会人として外に出て行くためにも、精神面の教育もしていただければと思う。

「教育関係者」

- ・大学と高校の連携として、生徒に基礎的知識の確認や研究指導をいただいております。
- ・高校の近くに大学があることは大事である。
- ・卒業後の学生の約70%が地元に戻っていることは大きいため、維持させていくことが大切。
- ・18歳人口の減少には何とか対策を講じなければならず、大学の公立化も一つの方法だと思う。
- ・大学があるこの地域は自然環境も良いため、学生にはそこに目を向けてもらえたらと考える。
- ・工学系の大学であるが、農に視点を向けられているのは一つの配慮だと思う。
- ・自然環境分野の関係にも目を向けていただけたらどうか。
- ・大学があることで若者が居るということは、地域の活性化に必要なこと。
- ・一貫教育の流れの中でも、大学が諏訪地域にあることは重要。
- ・長野県の大学進学を希望する学生約10,000人に対し、県内大学の学生収容キャパが約3,200人。そのうち2,000人は信州大学であり、残りの約1,200人が私立大学となるが、圧倒的に県内大学の学生収容キャパが少ない中で、更に大学が減ってしまうことは県にとっても困ることだと思う。
- ・地域の産学金の中でも、諏訪東京理科大学は大切な役割を担っている。
- ・逆に、諏訪東京理科大学が立派な大学になってしまうと、地元の学生が入れない大学になってしまう。信州大学を例にすると、2,000人の定員数に対して4人に1人しか地元からは入れない。他地域から多くの学生が来て、県内に貢献いただくといった見方もできるが、その辺りをどういった立ち位置にしていくかは、大学のあり方としては非常に難しいと感じている。

「議会議員」

- ・ただ存続させるために公立化をするのではなく、地元との連携をどうやって考えていくかが大切。
- ・魅力ある大学づくりとしては、学業をする学生として地域に暮らすだけでなく、山登りやスケート等の部活動等でも、もっと地元に入っていける態勢づくりも必要ではないか。
- ・大学には、地域産業や行政の面においても、非常に多くのご指導をいただいております。
- ・理科大が存続しなくなった時のマイナス面を考慮すると、存続をお願いしたい。
- ・生活の面でも、学園都市とまではいかないが、学業以外での魅力あるまちが必要。
- ・生活面も支援も考えていかなければならないと思う。

「有識者会議委員からの意見等の募集について」

委員長からの提案により、諏訪東京理科大学の公立化等に関する意見や要望資料等を、次回会議までに全委員から別紙連絡票にて事務局宛て提出いただくことを決定。